

第109回 山口西田読書会（前回4月9日プロトコル）

参加者 佐野、谷、橋本、桑原、岡部、山口、千葉、唐露、藤村

1、善の研究3編3章7－8段落を読了

2、要約

第7段落（意識の性質について）

- ・意識には必ず一般的性質のものがある。すなわち意識は理想的要素を持っている。これは、現実の出来事の他に他の可能性を有していることを意味している。言い換えれば、現実にしてしかも理想的、理想的にして現実から離れないということである。
- ・意識の根底には、理想がありそこから現実を見れば、それは理想の特殊なる一例という事になる。すなわち、理想が己自身を実現する一過程に過ぎない。

参照：第1編第2章第8段落「我々は普通に思惟によりて・・・」（講談社学術文庫版 p70）

第8段落（意識の自由について）

- ・意識の自由なる訳は、自然の法則を破って偶然的に働くから自由なのではなく、反って自己の自然に従うが故に自由なのである。
- ・人は他より制せられ圧せられても、（制せられ圧せられていることを）知っているが故に、この抑圧以外に脱しているのである。

「意識の根底たる理想的要素について」

- ・理想的要素は、言い換えると統一作用なるものであり、これは自然の産物ではなく、反って自然はこの統一により成立するものである。このことは、実在の根本たる無限の力であり、数量的に限定できず、自然の法則の外にある。我々の意志は、この力の発現なるが故に自由なのである。

参照：第3編第9章第4段落「・・・我々の意識は・・・その根底には内面的統一なるものが働いているので・・・」（講談社学術文庫版 p328）